

提 案 概 要

| | |
|------|----------|
| 実施期日 | 8月2日(火) |
| 部会名 | 中学校 道徳部会 |

- 1 提案テーマ 『生徒が自ら主体的・協働的に学び合う道徳の授業を目指して』
- 2 単元(題材) 「二通の手紙」(出展:文部科学省 書名:私たちの道徳 読み物資料)
- 3 学年 第3学年

4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

- ① 生徒が自ら課題に取り組み、他とかかわりながら自ら考え生きようとする道徳教育の推進
- ③ 自立心や自律性、規範意識、社会参画への意欲や態度を育てる道徳教育の充実
- ④ 道徳の時間の指導と評価の工夫・改善

5 学習指導要領との関連

第3章 道徳 第2 内容 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

- (1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。

6 実践に向けての課題意識

文部科学省は平成27年2月4日、平成30、31年度以降に特別な教科となる「道徳」の小中学校の学習指導要領改定案を公表した。教材を読むことを中心にした道徳の授業ではなく、問題解決や体験学習の手法を新たに提示。生徒が特定の見方に偏らず、多面的・多角的に考えられるようになることを目指し、話し合いや討論など、言語活動の充実を打ち出した。

また、「自分の頭でしっかりと考え、また他者と協働しながらよりよい解決策を生み出す力」の育成を図り、「協調学習」や「アクティブラーニング」の視点からの授業改善が求められている。

その改定案を受けて、教材を読み、感想を話し合うだけの読み物道徳からの脱却を図り、生徒が自ら主体的・協働的に学び合う道徳の授業改善に努めている。

7 実践の概要

形式的な読み物教材の使用や、一方的な意見の投げかけにとどまらない、「読ませ」「考えさせ」そこから更に「共有し合い」「学び合う」ことのできる、いわゆる「協調学習」や「アクティブラーニング」を取り入れた道徳の授業についての手立てを考えた。

道徳の授業で意図的に協調学習を引き起こすためにはグループ活動が不可欠である。数あるグループ活動の中から「知識構成型ジグソー法」を利用し、授業を組み立てた。

「知識構成型ジグソー法」とは、生徒が一人ひとりの違いを生かし合って、各自が自分なりの考えを深め、学んだ成果の適用範囲を広げていけるグループ学習法である。

この実践では、「法やきまりの意義」をジグソー活動を通して多面的・多角的に考えさせ、議論させることによって考えを深めさせた。そして、法やきまりの意義に気付かせ、それらを守ろうとする実践意欲を育てることをねらいとした。

8 成果と課題

「知識構成型ジグソー法」を活用することにより、全員参加が求められる環境からほどよい緊張感が生まれ、多角的・多面的な意見交換が活発に行われた。授業が終わった後も生徒たちが議論を続け、感想を共有し合う姿が見られた。ジグソー法は協調学習やアクティブラーニングを研究する上で効果が高く、今後は様々な道徳の題材でジグソー法を実践し、可能性を広げていきたいと思う。

9 予想される協議の柱

1. 生徒が自ら主体的・協働的に学び合う道徳の授業実践について
2. 道徳の授業における評価方法の工夫・改善について